

ナシ類の生育は、満開時点で昨年より 7 日程度進んでいる状況です。毎年結実が不安定な南水等は、着果状況やサビ等をよく確認し、予備摘果等の管理作業に入ってください。

4 月下旬からアブラムシ類の発生が目立ちます。葉の被害等が大きい場合は、特別散布を実施する等の対策を講じてください。併せて、土壌乾燥により、葉色が悪く、弱小葉が多い場合は、定期防除に苦土やマンガン成分を含む葉面散布資材を混用散布し健全葉の育成に努めてください。

■ 和梨の定期防除（収穫中の作物への飛散に注意する）

☆ 5 月中下旬の薬剤散布（前回より 10～12 日後）

散布時期：5/20～25 頃（左記は目安です。）

散布薬剤

水	1 0 0 リットル
展着剤	2 0 ml
コルト顆粒水和剤	2 5 g（前日、3 回）
アントラコール顆粒水和剤	2 0 0 g（45 日前、4 回）

対象病害虫：黒斑病、黒星病、赤星病

アブラムシ類、クワコナカイガラムシ

散布量：10 a 当たり 350 リットル

注意事項 ＊必ずお読みください

- ① アブラムシ類の発生園は、5 月末にバリアード顆粒水和剤 4,000 倍（前日、3 回）を特別散布する。
- ② 土壌乾燥等により葉色が悪い場合や弱小葉が多い場合は、苦土含有葉面散布資材のビックマグ 1,000 倍やグリーンデイズ 1,000 倍を今回から 3 回程度連続して加用する。

◆ 散布日：5 月 日
◆ 散布量： リットル

◆ 南水予備摘果のポイント

次回（6 月上旬）の散布予定
◆ 6/5～10（前回 15 日後）

- ① 実施時期
 - 満開後 10 日から満開後 25 日位まで
 - 土壌乾燥等により初期肥大不良が心配されます。結実が確保されている園では予備摘果を早めに進めてください。
- ② 実施方法
 - 残す番果：3・4・5 番果（1 番軸が短い・条溝果になり易い、6～8 番肥大不良）
 - ☆ 予備摘果の段階では 1 番果が一番大きいので、2 番目に大きい果実（1 番果の隣又は真上に位置する果実）を残すと概ね 3, 4 番果になる
 - 残す果実：果柄が長い・大きい・形がよい
 - ☆ 結果枝：短果枝（基本は長果枝にはならせない）
 - ☆ 残す向き：果台が横向き、斜めを向いた果実、外向きの果実（袋掛けのし易い位置）
 - おとす果実
 - ① 主枝上で枝がほしい場所（永久樹で伸ばしたい主枝最先端は確実に摘果する）
 - ② 果台が真上を向いた果そう：軸折れ、日焼け、枝すれ
 - ③ 果台が真下を向いた果そう：肥大不良、変形果、低糖度
 - ④ 無着葉果そう：肥大不良、低糖度
 - ⑤ 肥大不良子花が結実した果そう：肥大不良、変形果

◆ 西洋梨の定期防除は裏面をご覧ください。



西洋梨の定期防除（収穫中の作物への飛散に注意する）

梅雨入り前の輪紋病重要防除です。雨が続く前の予防散布に努めてください。また、全域で腐らん病が早期多発傾向です。梅雨期間の感染拡大を予防するため、病斑部の削り取り処理等を早めに進めてください。

☆ 5 月中下旬の薬剤散布（前回より約 12～14 日後）

散布時期	5/15～20（左記は目安となります。）	◆ 散布日：5 月 日
散布薬剤	水 1 0 0 0 当り 展着剤 1 0 ml コルト顆粒水和剤 2 5 g（前日、3 回） ジマンダイセン水和剤 2 0 0 g（30 日前、5 回）	◆ 散布量： リットル
対象病害虫	輪紋病、黒斑病、黒星病、アブラムシ類、カイガラムシ類	
散布量	10 アール当り：400 リットル	
注意事項	① アブラムシ類の発生園は、5 月末にバリアード顆粒水和剤 4,000 倍（前日、3 回）を特別散布する。 ② 土壌乾燥等により葉色が悪い場合や弱小葉が多い場合は、苦土含有葉面散布資材のビックマダグ 1,000 倍やグリーンデイズ 1,000 倍を今回から 3 回程度連続して加用散布する。	

◆ 5 月中下旬の重点作業

次回（6 月上旬）の散布予定
◆ 6/1～5（前回 15 日後）

1. 予備摘果（満開後 30 日以内に実施してください）

- ◆ まずは 1 果そう 1 果とする。（5 月 20 日を目安に終了する）
- ◆ オーロラは結実確定後に実施する。
- ◆ 弱い果そうは摘果する。花芽が少ない場合は、弱い果そうも利用し着果量を確保する。
- ◆ 残す果実は大きく長手をひき、軸は太く長いものを残す。
- ◆ 目標果実：18～20 玉中心。昨年肥大不良であった園地は、早めに予備摘果を進める。

2. 主枝・側枝誘引

- ◆ わい性台樹・・・次年度の花芽着生促進と側枝を太らせないために必ず実施してください。
- ◆ 普通樹・・・主枝候補の誘引。オーロラは 45 度、ラ・フランスは 30 度に誘引してください。

3. 土壌水分管理・葉面散布

- ◆ 結実後の土壌乾燥等により初期果実肥大が心配されます。定期的なかん水を実施してください。

4. 追肥の施用（結実確定後）

- ◆ プレシヤス有機を樹勢や結実量に応じて 10 a 当り 1～2 袋を目安に施用する。

